

令和2年5月13日付け朝日新聞1面の
鷺田清一氏のコラム『折々のことば』にて、
みらいプラネット理事長の有富が綴った文
章が掲載されました。

こちらの文章は、有富著「負けるものか！
～未来への自分へ・自分らしく生きるため
の復活力～」から取り上げられました。

折々のことば

鷺田 清一

1814

喜怒哀楽のうち、怒りと哀しみは積もるもの
であり、喜びと楽しさは積もらない。

有富健ありどみつよし

「だからいつも喜びと楽しさを発生させ
る努力は必要である」と、血管奇形という
難病を患う有富は言う。激痛、余病に苦し
みつつも、難病指定と患者の相互支援のた
めに活動してきた。苦悶くもんや焦りはつい表に
出る。が、それだと周りは退く。作り笑い
であっても、笑顔でいれば人は集まってく
る。「形から入る」のがまずは大事と、『負
けるものか！』（真里鈴構成・編集）から。

喜怒哀楽のうち、怒りと哀しみは積もるものであり、喜びと楽しさは積もらない。

有富健

「だからいつも喜びと楽しさを発生させる努力は必要である」と、血管奇形という難病を患う有富は言う。激痛、余病に苦しみつつも、難病指定と患者の相互支援のために活動してきた。苦悶や焦りはつい表に出る。が、それだと周りは退く。作り笑いであっても、笑顔でいれば人は集まってくる。「形から入る」のがまずい大事と、『負けるものか!』(真里鈴構成・編集)から。

2020・5・13

鴻輝新報「雄飛」

令和2年5月20日

毎月20日発行

雄 飛

第902号 (6)

い現実です。こうした本

よりのもはるかに上回るケースがあることは否めない現実です。

第5話 人権学習啓発図書の発刊



村岡副政山口県知事と談笑する有富理事長



偏見や差別をなくそうと小学生低学年にも理解できるように作られた人権啓発図書「ひとつぼし」

ひとの痛みがわかる優しい社会を育てたい

といます。患者・障がい者・犯罪被害者・父子母子寡婦等々社会的弱者といわれる方たちは、これ、強く「Irrep laceable」というような二次被害に傷つき苦しめられており、共通の悩みとなつていま

復活力」を発刊し、さらにこれを元に製作した学習教材DVD「映き誇れ、強く」Irrep laceable」によりドラマ化していま

生きてるための学習教材DVDについても

この漫画化などの要望が相次いだため、2年前より漫画化の構想に入り、本年3月に完成に至りました。

これまでの原作本や学習教材DVDについても、光を反射する天体のことで、笑いながら読んでも楽しい、幼い頃からひとの痛みが分かる人間教育の一助にしたいことを願っています。もちろん、一般企業などの社員の人権研修本として活用

し病気と差別と闘った実話である「負けるものか!」未来の自分へ

「ひとつぼし」を発刊し、さらにこれを元に製作した学習教材DVD「映き誇れ、強く」Irrep laceable」によりドラマ化していま

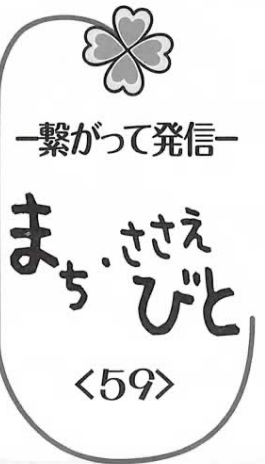
この漫画化などの要望が相次いだため、2年前より漫画化の構想に入り、本年3月に完成に至りました。

これまでの原作本や学習教材DVDについても、光を反射する天体のことで、笑いながら読んでも楽しい、幼い頃からひとの痛みが分かる人間教育の一助にしたいことを願っています。もちろん、一般企業などの社員の人権研修本として活用

し病気と差別と闘った実話である「負けるものか!」未来の自分へ

「ひとつぼし」を発刊し、さらにこれを元に製作した学習教材DVD「映き誇れ、強く」Irrep laceable」によりドラマ化していま

この漫画化などの要望が相次いだため、2年前より漫画化の構想に入り、本年3月に完成に至りました。



す。これを解決するには自分より弱い立場の人への先入観や偏見による差別をなくすことが肝要だと思われま

みらいプラネットではこの解決の一助として、全ての差別と偏見の撤廃・排除を行い、人権を

守り、「笑顔あふれる共生社会の実現」に向けての活動を行っています。

その活動の一つとして、今から4年前の平成28年3月に、難病に罹患

各小中学校及び公立図書館に配布し教育の一環として活用いただいております。

重県、奈良県、大分県、沖縄県の各県の小中学校にも配布し、厚生労働省や文部科学省にも直接大臣に手交して配布しています。

しかし、配布を進めていく上で、小学生、特に低学年では難しいためDVDのアニメ化や原作本

び発刊しました人権学習啓発図書「ひとつぼし」映き誇れ、強くNext Season」は難治性血管奇形に特化せず、むしろ人権問題により深く関わるような作品となるよう心がけました。スト

リーは学習教材DVDの数十年後に設定されており繋がっていくようになっていきます。

小学校ではこの漫画を楽しみながら読んでもらい、幼い頃からひとの痛みが分かる人間教育の一助にしたいことを願っています。もちろん、一般企業などの社員の人権研修本として活用

理事長・有富健

防府市市民活動支援センターからのおしらせ

防府市で
2団体目!

認定特定非営利活動法人誕生!

認定特定非営利活動法人みらいプラネット

『認定特定非営利活動法人みらいプラネット』は、難治性血管奇形の啓発、差別の撤廃と偏見の排除を目的に活動しています。

難治性血管奇形は、疼痛、腫脹、潰瘍、出血、発熱、機能障害などの症状があり、完治させることが難しく、生涯にわたる疾患治療・管理が必要な病気です。まだまだ一般的には知られておらず、そのため自分の病気が何か分からないために苦しんでいる患者さんがいます。その救済のため病気の啓発に取り組むとともに、患者さんへの偏見や差別の撤廃に向けた活動を行っています。

認定特定非営利活動法人とは・・・

運営組織・事業活動が適正で公益の増進に寄与する団体として一定の要件を満たし、都道府県の知事または指定都市の長の認定を受けた特定非営利活動法人のことです。認定特定非営利活動法人への寄付者は税制上の優遇措置を受けることができます。

認定を受けるためには、広く市民からの支援を受けているかどうかを判断するため、収入に対する寄付金の割合や金額などをチェックするパブリック・サポート・テストをクリアする必要があります。

防府市まなほら

令和2年6月1日

中国新聞

令和2年6月5日

差別やいじめなくそう 防府のNPO法人が漫画



社会的弱者への差別やいじめをなくすことを訴える漫画図書

認定NPO法人みらいプラネット(防府市)は、漫画を通じて社会的弱者への差別やいじめをなくすことを訴える小学校低学年向けの図書を発刊した。県に500冊を寄贈し、県内の小学校や図書館で人権学習に役立ててもらおう。

B5判、122ページ。タイトルは「ひとりぼし」。ある日突然、目の難病を患った主人公の女児がいじめを受けて苦しむ中、障害のある人たちと出会い、前向きな気持ちを取り戻していく

物語。周囲の病気への理解が広がっていくことも描いている。

同法人は病気で悩みを抱える患者の支援などに取り組んでいる。難病患者でもある自身の経験を漫画の原作にした元県職員の有富健理事長は「本を読んだ子どもたちには人を理解できる優しい気持ちを持った人間に育ってほしい」と話している。希望する中学や高校にも無料で配る。同法人 ☎ 0835(22)3112。

(渡辺裕明)

月曜インタビュー

認定NPO法人・みらいプラネット理事長 有富 健さん

病気を理由に周囲から誹謗中傷を受ける「2次被害」の支援に取り組むみらいプラネット。活動9年目の今年、認定NPO法人となった。理事長の有富健さん自身も難病患者で、職場で受けた差別や偏見に苦しんだことが活動の原点。「相手の立場で考えられる社会になってほしい」と訴える。(山口支社・岩崎新)



〈ありどみ・つよし〉防府市出身。慶応大卒業後に山口県庁入り。約20年前に原因不明の難病「難治性血管奇形」を発症し、2012年12月に「みらいプラネット」の前身となる患者支援会を設立。今年2月に認定NPO法人となったことを機に、3月末に県庁を退職した。産業カウンセラー、国家資格キャリアコンサルティング2級技能士、認定心理士、行動心理士。趣味は旅行。防府市在住。

相手の立場考える社会へ

―設立から9年。活動の歩みは
もともと私が20年前に発症した「難治性血管奇形」の難病指定を求める患者支援会として立ち上げた。1年半休職し、その後も入院を繰り返して、全国の病院を回ったが、病名判明に10年もかかった。患者が不安なく闘病に集中できる環境づくりに取り組む中で、同

―「2次被害」を防ぐ活動を始めたいきっかけは復職のあいさつをしよう

と仲の良い同僚に電話した。社会復帰が夢だったのた。受話器越しに「脱落者」と言われていたのが漏れ聞こえた。職場であいさつしても無視され、症状が外見では分からないため、体調不良を訴えても「怠け病」「詐病」と言われ続け

た。職場の無理解が救し、悔しかった。味方なのか敵なのか、疑心暗鬼にもなった。心を守るため、仕事の間に通信制大学に通い力が増え、会員制交流サイト(SNS)を通じ県外から

多く寄せられる。3年前に患者への対応力や知識などを問う「難病カウンセリング検定」を始めた。今年には体験を原作にした小学校低学年向けの啓発漫画も作り、県内の学校に配った。相手の立場に立って考えられる人を育てることが狙いだ。

―新型コロナウイルス感染者がインターネット上で誹謗中傷を受けている。2次被害をなくすために何が必要か
「コロナ患者」悪いという図式は、社会の方が病的に思える。患者本人が一番苦しいのに、火に油を注ぐような社会であっていいの。私たちのモットーは社会の片隅にまで光を届けること。復職した時に心配してくれたり、「大丈夫？」と声を掛けてくれたりしていたら、どん底に突き落とされることはなかった。私のような悩みを持つ人がいなくなっしてほしい。